

スペイン走者と意見交わし

富士宮
高校会議所
絵はがきなど
プレゼント



ハボンさんらと交流する推進メンバー

富士宮高校会議所（渡井美結・清彩華会頭）はこのほど、富士宮市西町の西町レトロ館で東北クロッシングⅡプロジェクト推進メンバーと座談会を開いた。スペインから来日した2人と会員8人が、互いの活動について意見を交わし交流した。

東北クロッシングは一般社団法人支倉常長日西文化協会が主催。スペインのランナーが、伊達政宗が派遣した慶長遣欧使節の一人支倉ゆかりの地コリ

ア・デル・リオの「ハボン」という姓のルールである日本を走り、国際交流を図りながら



活発に意見を交わす

日本を紹介するものの員の「長距離ランナーで、2015年に東日本大震災の復興も兼ねて第1回を開催した。カルロス・ハボンさんを多くとる、日本の孫、エドワード・フェルナンデス・アゲラさん名前は前回大会でも力走答えた。

したトレイルランナ1。今月始め、春風を背に市民ランナーと共に富士市の田子の浦みなど公園から村山浅間神社までの約32キロを、富士山と茶畑を眺めながら走破した。

同日、会

2人は「東北人の根気と辛抱強さに敬意を表す。次回は交換留学生としてスペインで交流したい」とメッセージを伝えた。

最後に会員が同会議所オリジナルの絵はがきセット、ニジマスふりかけとお茶漬け、キーホルダー、マグネットなどプレゼントし「帰国後も富士宮を思い出してほしい」と伝えた。交流を通じ、スペインと日本とのつながりを深く考えるきっかけになったという。